

平成21年7月25日・26日 梅雨前線に伴う出水と
寺内ダムの洪水調節効果について

寺内ダムの洪水調節により下流河川の水位低減に効果がありました。

筑後川水系佐田川の寺内ダム(福岡県朝倉市)上流域では、梅雨前線の活発な活動により、降り始めの7月24日8時から7月27日9時までの累加雨量は352mm(ダム流域平均雨量)を観測しました。特に25日2時から5時までの3時間雨量は74mmを観測しました。

この降雨により寺内ダムでは流入量のピークを2回記録しました。1回目の流入量のピークは、25日6時20分に最大毎秒約180立方メートル(昭和53年の管理開始以降で2番目に多い流入量。過去最大流量は平成17年7月10日に観測した最大毎秒約181立方メートル。)を観測し、洪水調節を行うことにより下流河川の流量を毎秒約78立方メートル減らしました。寺内ダムから約8km下流の金丸橋地点の河川水位は、洪水調節によって約0.53m低下させたと推定されます。もし、ダムによる洪水調節が無ければ避難判断水位付近の約3.23mまで河川水位が上昇していたと推定されます。

2回目の流入量のピークは、26日13時30分に最大毎秒約135立方メートルを観測し、洪水調節を行うことにより下流河川の流量を毎秒約39立方メートル減らしました。金丸橋地点の河川水位は、洪水調節によって約0.29m低下させたと推定されます。2回目の出水では、ダムによる洪水調節が無ければ約2.87mまで河川水位が上昇していたと推定されます。

※洪水調節とは、流入量が洪水量に達した時から流入量と放流量が等しくなるまでの期間に、流入量の一部を下流河川に放流し、残りをダムに貯めて、洪水調節を行わない場合よりも下流河川の流量を減らし、氾濫の防止に寄与することです。

《配付先》 西日本新聞朝倉支局
読売新聞筑紫支局
毎日新聞福岡南支局
朝日新聞太宰府支局

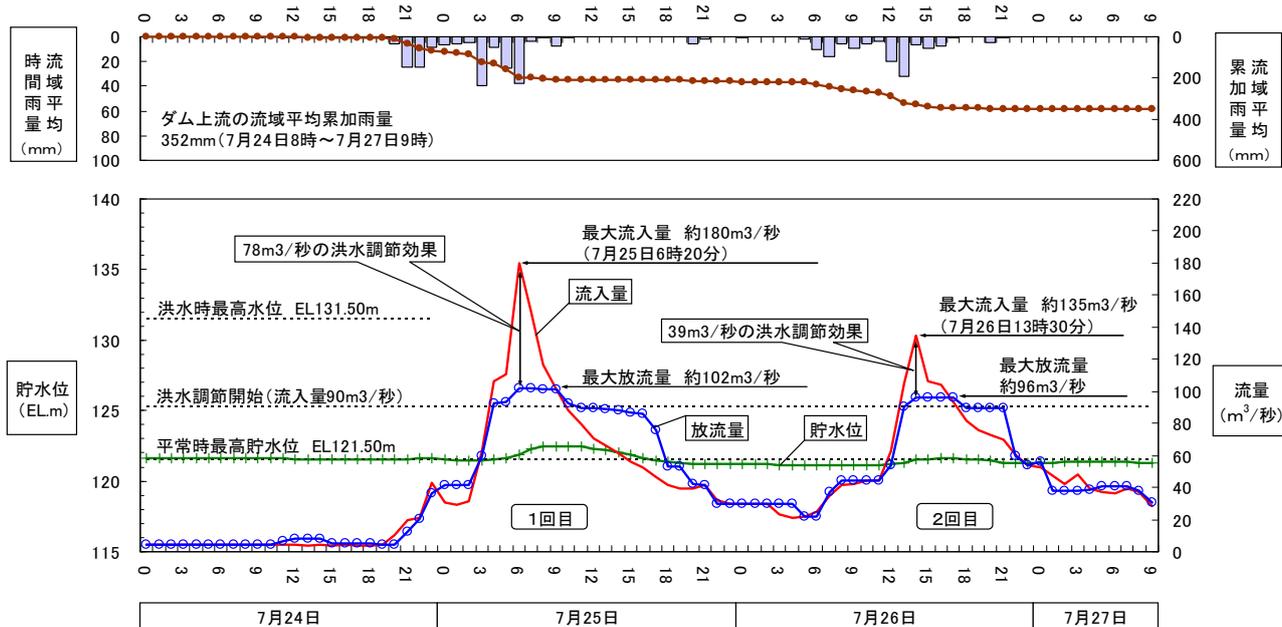
《問い合わせ先》 独立行政法人水資源機構 寺内ダム管理所
所長代理 永田 勝志 (ながた かつし)
電話番号 (0946)22-6713

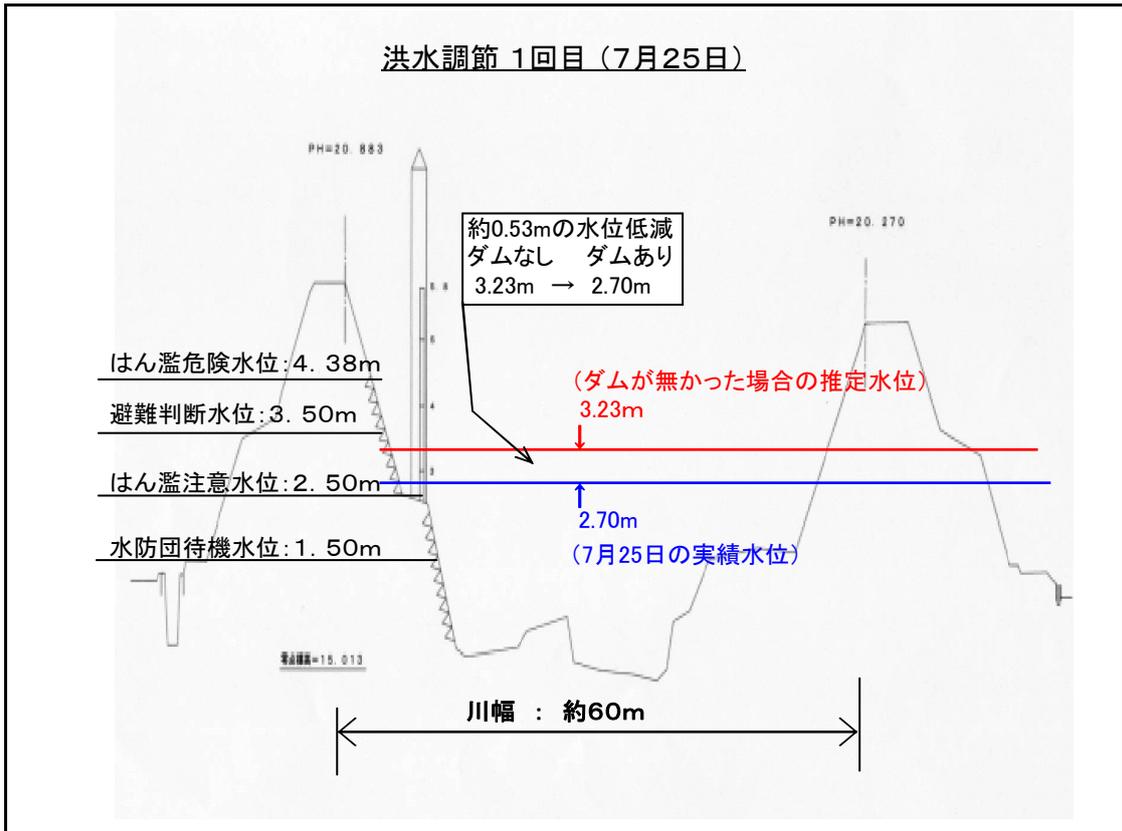
平成21年7月25・26日 梅雨前線に伴う出水と 寺内ダムの洪水調節効果について



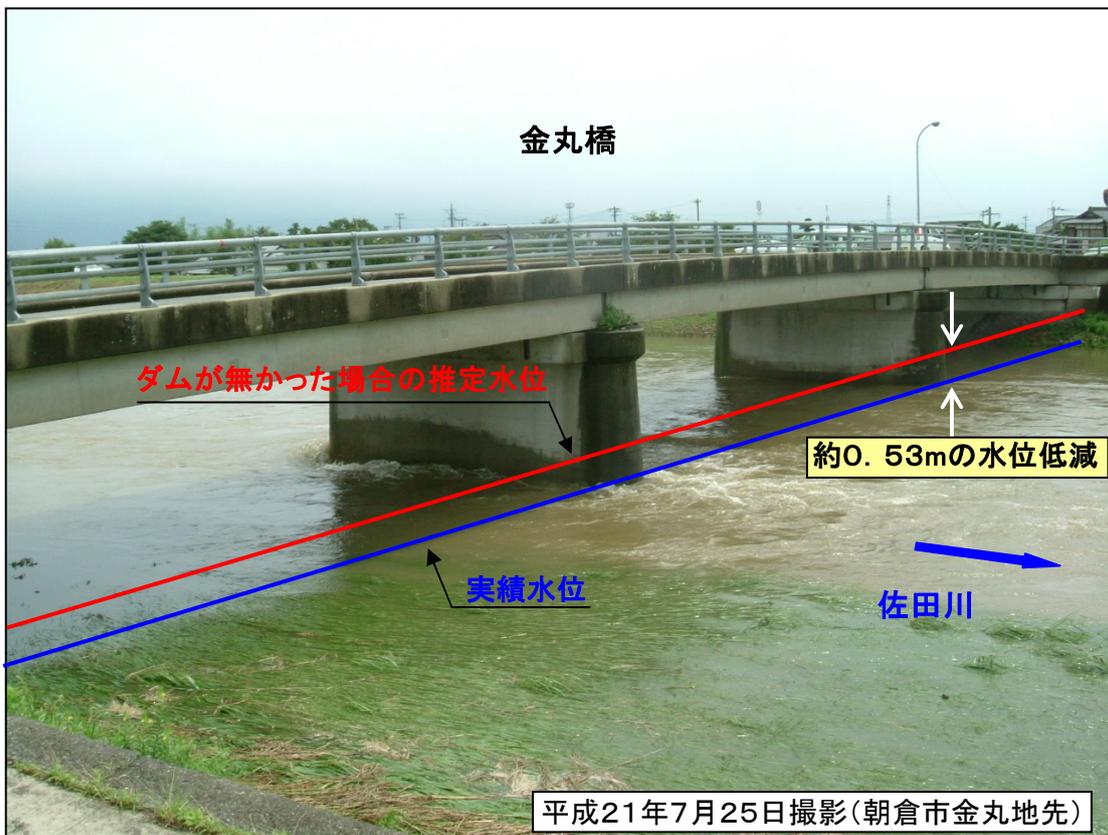
寺内ダム諸元
 平常時最高貯水位(常時満水位) : EL.121.50m
 洪水時最高水位(サーチャージ水位) : EL.131.50m
 総貯水量 : 18,000,000m³ 有効貯水量 : 16,000,000m³
 洪水調節容量 : 7,000,000m³
 洪水調節開始流量 : 90m³/秒 計画最大流入量 : 300m³/秒
 計画最大放流量 : 120m³/秒

寺内ダム洪水調節状況(7月24～27日)





かなまるばし
ダムの洪水調節効果【金丸橋地点の水位低減】



さだ
ダム下流の金丸橋地点 (佐田川)